

恋するまなぎしのドラマ

チャン・イーモウ『初恋のきた道』について

大石和久

映画の中で、片想いは、あこがれの人に熱き恋するまなぎしを送る人物と、そのようにして想いを寄せられる、神々しきまでの人物の切り返し(見ている者と見られている者を交互にスクリーンに映し出すこと)の連続によって描かれることがしばしばある。この場合、通常、少なくともまなぎしを受ける人物は熱視線を受けるに値する魅力をもった人物でなくてはならないだろう(古典的スターの存在理由の一つがここにある)。それでなければ、観客も納得しないだろう。また、このような手法はすでに陳腐なものとなっていて、と言っている。

中国の映画監督チャン・イーモウの最新作『初恋のきた道』(00)は、このまなぎしを軸とした切り返しの畸形化したヴァリエーション(変異体)を示してくれる。この映画のほとんどが、美しき田園の少女(チャン・ツイイー)が都会からやって来た青年に送る片想いの熱視線と、その青年の切り返しから成立しているのだが、その切り返された熱きまなぎしの対象、つまり想いを寄せられる青年の存在感が全く希薄なのである。物語の中ではたしかに彼女が彼を好きになった理由が説明されるが、映像的には男は全く魅力を欠いている。極

端な言い方をすれば、彼女の初恋の相手は、監督チャン・イーモウにとって、都会から来たという条件を満たす人物ならば、だれでもよかったのではない(特徴的なのは刈り上げヘアーだけ)。しかし、まなぎしの対象が凡庸であればあるだけ、チャン・ツイイーが見つめていること、その行為のみ(切なくて、強い意志に裏打ちされたあの一途なまなぎしのみ)が際立つ。チャン・ツイイーがまなぎしを送る、それだけがこの映画では重要なのだ。初恋の相手を演じる俳優は、逆に、彼女に見られることによるのみ、かろうじて存在を保っている、といった感じなのである。熱きまなぎしを送るチャン・ツイイーのみが、この映画の中で光り輝くスターとなる。

ただし、この映画の中には、もう一人、熱きまなぎしを送る者がいる。少女から熱き視線を受ける男ではない。少女が片想いをする映画だけに、男がまなぎしを彼女に向けることは、ほとんどない。それは、チャン・ツイイーに向けられたカメラである。もちろん、カメラは画面には登場しない。しかし、カメラは映画の世界には不在であるにもかかわらず(いや、むしろそれゆえに)、映画の世界のいたるところに遍在し、少女にまなぎし

- p.1-2. 恋するまなぎしのドラマ ■ p.3. 刑法学あれこれ②
■ p.4-5. 北海道地区図書館職員研修会発表
■ p.6. 韓国を知るための本② ■ p.7. 書評 ■ p.8. 韓国の文字

を向けている。このようなカメラの視線は、それを指揮する——カメラと同様に映画の世界には登場しない——監督の視線と考えられる。つまり、チャン・イーモウこそがカメラによって少女に熱視線を送っていたのである。スクリーン上の映像として具現化された、恋に身を焦がす少女への〈幻想〉（恋しき人の存在は、常にすでに、まなざしの創作する映像、つまりは〈幻想〉でしかないのだろう）、それを不可視のカメラを通じて観客に媒介し、少女を見つめる自分自身の快楽を映画を観る者にも伝えること。これをチャン・イーモウが意図していたとすれば、私は、自らの存在を消した不在のまなざし（これはのぞき見るまなざしと同じではないか）の主（監督）と同一化し、快楽を共有することはできなかったので、快楽共犯者にならずに済んだのだった。ただし、これは単なる

趣味の問題ではない。たとえば、溝口健二は、まなざしを表現する切り返しの技法をほとんど拒絶し、人物のまなざしも、カメラ＝監督のまなざしもむしろ無化することで、映像を〈幻想〉から解放し、恋に落ちた男女の〈リアル〉な姿を追求する独自のスタイルを完成させた映画監督であった。まなざしのドラマ、それはたしかに映画の一つの傾向ではあるとしても、決して映画の唯一の本質ではない。たとえ畸形化しているとはいえ、映画の中で恋を語るのに、まなざしのドラマ（しかもすでに陳腐化したそれ）に固執し、しかもそのことに無自覚なチャン・イーモウの監督としての素朴さに、私はこの映画を観ながら苛立ちを覚えたのである。

（おおいし かずひさ／人文学部講師）

このエッセイに関する図書館の本紹介

中国映画については

電影風雲／四方田犬彦著 778.22/YOM

映画の中のまなざしについては

「新」映画理論集成 1、2 778.01/SHI/1、778.01/SHI/2



「初恋のきた道」のワンカット（山下ちほぎ画）

刑 法 学 あ れ こ れ

2

— マックス・プランク外国 及び国際刑法研究所とは —

吉 田 敏 雄

ドイツ連邦共和国は、バーデン＝ヴェルテムベルク州のフライブルク市(シュヴァルツヴァルト、つまり黒い森に囲まれた市で、先進的環境都市として日本でもよく知られている)の中心部から市電で5分のところに、マックス・プランク外国及び国際刑法研究所がある。本研究所は、ヨーロッパにおける刑法研究活動の指導的役割を果たしており、刑法部門と犯罪学部門から成る。前者の所長は、生殖医療と刑法に関する世界的権威のアルビン・エーザー教授であり、日本にも何度も来ており、札幌にも来たことがある。後者の所長は、現在、ハンス＝イェルク・アルブレヒト教授であるが、前任者のギュンター・カイザー教授は、ヨーロッパ犯罪学の権威で、本学でも講演し、聴講学生に深い感銘を与えた。

本研究所は、全世界の刑法、犯罪学の研究活動を行っており、地域毎に、その言語を得意とする研究員を配置し、情報を収集しており、時に国際学会を開催し、それらの成果は、本研究所を含めた出版活動によって公表されている。現在、アジア部門を担当するトーマス・リヒター氏は中国語を得意とする。その前任者は日本語が得意で、現在、日本の大学に勤務している。

本研究所は、外国研究者にも門戸を開いており、世界各地から研究者が集まっている。2001年8月の外国人研究者は49人にのぼる。国籍をみると、ヨーロッパはもちろん殊に、イタリア、スペイン、タンザニア、トーゴといったアフリカや、中国、台湾、韓国そして日本といったアジア諸国からも来ている。6月以上の滞在者は、研究報告をすることになっており、2001年9月には、イタリアの研究者2名が違法性、法益に関する報告を行った。

本研究所の魅力は、刑法、犯罪学のあらゆる分

野の研究者がいること、また、その図書が、世界各国の図書を含めて他大学に類似を見ないほど充実していることにある。日本の研究図書、雑誌もそろっており、北海学園大学法学部紀要「法学研究」も製本され、配架されている。

本研究所の設立の背景には、刑法の比較法研究の重要性にある。ヨーロッパの啓蒙思想の伝播やフランス革命にともなう近代刑法・刑事訴訟法の制定がヨーロッパ全域に大きな影響を及ぼしたのである。ドイツでは、1916年にミュンヘン大学に比較法研究所が、1924年には、カイザー・ウィルヘルム外国公法及び憲法研究所、同外国及び国際私法研究所がベルリンに設立された。

1938年に、刑法学者のアドルフ・シェンケ教授がフライブルク大学に、バーデン州文部省の許可により、国際刑法ゼミナールを設置した。1947年には、これが外国刑法研究所と改名された。1954年に、シェンケ教授の交通事故による急死にともない、ハンス＝ハインリッヒ・イエシエック教授がその後任となり、同年、本研究所は、ドイツ連邦共和国、バーデン＝ヴェルテムベルク州、フライブルク大学の公的財団となり、さらに1966年に、マックス・プランク協会に所属することになり、今日にいたっている。

本研究所からは、世界的に著名な研究者が育っており、本学で講演したトーマス・ヴァイгент教授(ケルン大学)もその一人である。

(参照文献)

Max-Planck-Institut für ausländisches und internationales Strafrecht Freiburg

よしだ としお (法学部教授)

第44回北海道地区大学図書館職員研修会

『吉丸一昌とは誰か——「早春賦」で解く唱歌ミステリー』

プロ野球の名監督、三原脩氏はかつて次のように言った事がある。

日本を代表する打撃人を5人挙げよといわれたら、川上、長嶋、王、中西、大下。このうちさらに3人に絞れと言われれば、長嶋、王、大下。もし1人といわれたら、大下弘。

同じ事を日本の唱歌に当てはめるなら、故郷、朧月夜、夏は来ぬ、冬景色、早春賦。このうち3つといわれたら、故郷、朧月夜、早春賦。もし1つと言われたら、早春賦。

人の好みにもよるだろうこうした選択に敢えて、早春賦とするのには訳がある。戦後焼け野原の中をさまよった人々の中に早春賦を歌って自身を励ました人は多かった。そうした1人の老婦人が朝日新聞の読者欄に、「早春賦の作詞者は誰だったでしょうか」とたずねたことがある。1998年(平成10年)3月29日の事である。それから一週間たってもう1人の老婦人が、それは吉丸一昌と答えた。普通、早春賦の作者を吉丸一昌といえる人はまれであろう。彼女は沖縄ひめゆり学徒隊の一人だった。早春賦はそうした人たちにとっては、「国敗れて 唱歌あり」の感慨であったろう。

戦後、早春賦は6年生の音楽に載ったのだが、実はこの歌は明治45年から大正4年の間に、吉丸一昌が当時の若き東京音楽学校の学生たちに作曲させた一連の吉丸自身の作詞になるものの中の1つだった。これを「新作唱歌」といった。では『旧作』唱歌とは何か？ それこそが、吉丸一昌が中心となって編集するように命じられ、国威発揚を目指した純国産の文部省唱歌、つまり『尋常小学唱歌 一一六』であったのだ。この時、明治42年から明治43年、吉丸36歳から37歳にかけてであった。

戦後、小学校の音楽教科書に載った歌の中に「尋常小学唱歌」の歌も多数あった。そのほとんどは教科書事件によって伏されて作者不詳とされていたにもかかわらず、何故か『故郷』『朧月夜』『紅葉』が突如、高野辰之の作詞として載ったのである。後年の証言によれば、それは「マッカーサー

の指令による」ものだそうである。

高野辰之は長野県の生まれ。その妻は、島崎藤村の小説『破戒』の舞台となった信州の寺の娘だった。彼女の兄は仏門、「西本願寺」当主、大谷光端(こうずい)の側近、その娘は秘書となった関係にあった。大谷家は代々天皇家と姻戚関係にある名門であった。また高野辰之は学閥においても名門と姻戚関係にある。かつて吉丸一昌が師事した国文学の大家、東大教授芳賀矢一氏の孫、綏(やすし)氏と高野辰之の孫とが結婚した。このような関係が「マッカーサーの指令」とどのような関係にあるかはにはわかには談じがたいものの作者不詳の名作の上記3作が高野作品となった背景を知る手がかりの一つとなりうる可能性を持つものではないか。

では誰が『尋常小学唱歌』のなかの「故郷」「朧月夜」「紅葉」を作詞し得たのか？ それは「早春賦」を作詞した吉丸一昌以外にはありえないように思われる。

高野辰之には「春の小川」「春がきた」の作品があることは見とめられるものの、それ以外には、東京音楽学校演奏会用に作詞した「おお、ひばり」「日曜日」などがあるのみで、いたって寡作であることだ。その上に、「故郷」「朧月夜」「紅葉」の作曲は岡野貞一氏。彼を巡る関係では吉丸一昌の方がはるかに密接であった事は吉田稔氏の著書『望郷の歌 吉丸一昌』に伺える。そして何よりも吉丸一昌の文体の中にミステリーを解く鍵が隠されているのではないのか。

「故郷」の中にある「恙なしや 友垣」。

「早春賦」のなかの「さては時ぞと 思うあやにく」。

こうした文語体の用法こそ吉丸一昌にとって独特のものであるからだ。

彼の故郷、大分県臼杵。下級武士の子として貧しかった家庭を支えた野良仕事の後、通った漢学塾で彼はそのような用法を身につけていたこともまた吉田稔氏の著書によって明らかのように思える。

韓国を知るための本

2 歴史

水野邦彦

日本の古代国家形成において多くの渡来人が活躍したことは周知のとおりである。国を意味する韓国語「なら」が奈良という地名になったことは、その象徴であろう。こうして古来日本に影響をおよぼしてきた韓国について、その歴史全体を概観するには下のような本があげられる。

- ① 梶村秀樹『朝鮮史』講談社現代新書、1977年〔開架：081 / Ko 19〕
- ② 朝鮮史研究会編『新版 朝鮮の歴史』三省堂、1995年〔開架：221 / C 54〕
- ③ 金 龍煥ほか『絵で見る韓国の歴史』全11巻、エムティ出版、1993年〔開架：221 / E 22〕
- ④ 久保井規夫『図説 朝鮮と日本の歴史』明石書店、1994年〔開架：210.18 / Ku 12〕

①は新書版であるが中身はたいへん充実している。著者は韓国近現代史研究の第一人者で、逝去後に著作集が刊行されたほどである。日本人としてのありかたを自省しつつ歴史を記述する著者の気迫は、いつまでも胸を打つ。②は各時代の専門家が分担して執筆した概説書で、今日の韓国史研究の進展をふまえた標準的なものといえる。③は子ども向けの絵本の体裁であるが、あなどってはいけない。私たちはこの程度のことも知らないのだから。④は前近代篇と近代篇の2冊にわかれており、全ページの上段に写真が盛り込まれているところが出色であろう。

韓国の近代は日本との緊張関係に塗りつぶされている。欧米諸国にせまられて開国した日本は、わずか20年あまりのち、今度は立場をかえて韓国を開国させる。そして不平等条約を結び、実質的に韓国を侵掠しはじめ、やがて植民地化してしまう。姜在彦氏の言葉をかりれば、韓国は日本によって5年間の間接支配と35年間の直接支配を受けたのである。侵掠の記憶は今日の韓国でも決して消えていない。私たち日本人はせめて近代韓日関係をひとつと知り知っておきたいものであり、それ

を概観するには、上記の通史以外につきのような本がよい。

- ⑤ 中塚明『近代日本と朝鮮』三省堂、第三版1994年〔開架：319.1 / N 43〕
 - ⑥ 韓国民衆史研究会編『韓国民衆史 近現代篇』木犀社、1998年〔開架：221.05 / Ka 56〕
- ⑤の著者は日本史学者であるが、この本でも良心的な研究ぶりがかがえ、①と同様に力作といえる。⑥は軍事独裁がつづいていた全斗煥時代に韓国の若い歴史学研究者たちが書いたもので、刊行後すぐに発禁処分を受けた本の翻訳である。このほか安価に買える文庫本に、姜在彦『日本による朝鮮支配の40年』（朝日文庫）がある。

近代史の全貌にとつきにくい場合には、象徴的な人物や出来事についての本をひもどくのもよいだろう。その意味で⑦⑧はおすすめである。⑨は、⑦の柳寛順とともに韓国では知らぬ人はいない「義士」の生涯と伊藤暗殺事件を記述したものである。また⑩⑪は視覚的に日帝時代の韓国を知るのによい。解放後の経緯は⑫⑬に描写されているが、⑫⑬はかなり細かい記述である。

- ⑦ 早乙女勝元編『柳寛順の青い空』草の根出版会、1995年〔開架：221.01 / Y 96〕
- ⑧ 小笠原亮一ほか『三・一独立運動と堤岩里事件』日本基督教団出版局、1989年〔198.3221 / O22〕
- ⑨ 中野泰雄『安重根：日韓関係の原像』亜紀書房増補版1991年〔開架：298.21 / N 39〕
- ⑩ 辛 基秀 編『写真集 韓国併合と独立運動』労働経済社、1995年〔開架：221.01 / Sh 57〕
- ⑪ 中野茂樹『植民地朝鮮の残影を撮る』岩波ブックレット、1990年〔開架：081 / I 95 / 165〕
- ⑫ ブルース・カミングス『朝鮮戦争の起源』全2巻、シアレヒム社、1989-91年〔221.07 / C 95〕
- ⑬ 尹 景徹『分断後の韓国政治：1945年-1986年』木鐸社、1986年〔開架：312.21 / I 51〕

(みずの く に ひ こ / 経済学部教授)

いのち
「生命の暗号」 ①②

— あなたの遺伝子が目覚めるとき

村上 和雄著

単細胞生物の遺伝子はぜんぶ使われています。「持てる力をフルに使って生きている生命の最小単位」と思うとちょっと可愛くなりませんか？人は生まれたばかりの赤ちゃんでもすでに3兆個の細胞を持っているそうです。遺伝子から見ると生命はひとつの流れです。

「大腸菌のような単細胞の生き物から植物・動物・人まで全ての生命が同じ4つの遺伝子暗号(A・T・C・G)を持ち、同じ一つのシステムで生きている」と言うのですから。そして細胞(生命)は人工的にはつくれません。村上先生はこの生命の創造主に対して畏敬をこめて「サムシング・グレート」と呼びます。

昨年、アメリカで人体の設計図であるヒトゲノムがどのようにつながっているかを、全て解読したと発表した会社がありました。その数30億個。その延々とつながる30億個のうち、タンパク質(アミノ酸)を作る指令を出している部分が遺伝子と呼ばれます。人は3万個で、蠅の倍。その少なさに研究者もビックリしたそうです。遺伝子以外の大部分はどのような働きがあるのかまだ分かっていません。遺伝子の部分も実際に働いているのは5%位で他は休眠状態。「しかし遺伝子はOFFになったりONになったりする」というのが村上説です。

温度・運動・食物・アルコール・タバコ・ストレス・感動、スイッチ要因は様々です。魚は水温が下がるとオスがメスになることもあり人間ではメンタルな力が強くなります。「強い思い」が遺伝子に働きかけるメカニズムは分かっていませんが、DNAの中の遺伝情報をRNA(リボ核酸)がコピーしてきてそのコピーをもとにタンパク質が作られます。遺伝子がONになるということは、このメッセンジャーRNA(リボ核酸)の量が増えることだそうです。サムシング・グレートが「プラス発想だよ」と言っている気がしませんか。

(K.F.)

「猫たちの聖夜」

アキフ・ピリンチ著

早川書房

猫が主役の小説はたくさんあります。そして猫が事件を解決する推理小説もたくさんありますね。「三毛猫ホームズ」や「シャム猫ココ・シリーズ」など猫好きにはたまりません。でも今回紹介する「猫たちの聖夜」とほかの本との圧倒的な違い、それは猫だけしか登場しない点です。人間はたとえていえば猫の目に映る足とか、餌の缶詰を開ける手ぐらゐの存在でしかありえませんが、被害者も猫なら、探偵も猫です。猫たちがあくまでも猫として、しかも高度に知的で感情豊かな存在として、ひとつの世界を作っています。猫による猫のミステリーです。

利口で生意気で少しワルの雄猫フランシスは、頼りにならない飼主のグスタフとともに古ぼけたアパートに引っ越してきました。そこでフランシスを待ち受けていたものは、無残に殺された仲間の死体でした。しかも近所を縄張りとする猫の「青髭」の話では、猫殺しはこれで四件目だといいます。コンピュータを自在に操る長老猫パスカルの協力で調査を開始したフランシスは、やがて……

おっと これから先はぜひ読んでみてください。猫好きでなくてもとても考えさせられます。ましてあなたが猫好きだったらもうフランシスの魅力にぞっこんです。

あなたの家の猫があなたの外出中にあなたのパソコンを使ってたりして、なんてね。

(M.T.)

韓国語の文字

李 英 愛

日本語の母音は基本母音5個と半母音3個であるが、韓国語の母音には基本母音10個(아[a]야[ya]어[ə]여[yə]오[o]요[yo]우[u]유[yu]으[eu]이[i])、それに複合母音11個(애[æ]얘[yæ]에[e]예[ye]와[wa]왜[wæ]외[ø]위[wə]웨[we]위[wi]의[mɨ])がある。韓国語の子音には基本子音14個(ㄱ[k, g]ㄴ[n]ㄷ[t, d]ㄹ[r, l]ㅁ[m]ㅂ[p, b]ㅅ[s]ㅇ[x, ŋ]*ㅈ[j]ㅊ[ch]ㅋ[kh]ㅌ[th]ㅍ[ph]ㅎ[h])、複合子音5個(ㄱㅋ[kk]ㄷㅌ[tt]ㅂㅍ[pp]ㅅㅆ[ss]ㅈㅊ[jj])があり、これらの子音は「平音」「激音」「濃音」の3種類に分けられる。日本語は漢字とともに50音ですべてを書き表すことができるが、韓国語は以上のような子音と母音の多様な組み合わせによって作られる(例えば、時計:시계[sige] 椅子:의자[mija] 山:산[san] 唐辛子:고추[kochu]など)。

韓国語にはさらに「バッチム」と呼ばれる「終声子音」がある。例えば、韓国の食べ物「ピビンバ」「クッパ」の正しい発音は비빔밥[pibimbap]

국밥[kukbap]であり、共通している밥[bap]は「ご飯」を意味する。「キムチ」は김치[kimchi]、韓国の首都ソウルは서울[səul]、ハングルは한글[hangu]、韓国の財閥「現代」は현대[hyəndæ]、「オンドル」** は온돌[ondo]と読む。

日本人の韓国語学習者が一番難しく感じるのは発音であるが、これは子音と母音の数が日本語に比べてはるかに多いことと、日本語には韓国語の「バッチム」のように子音で終わる音がないからであろう。

* ㅇは母音の左か上に書かれていると発音されなく、終声子音として使われるときは[ŋ]と発音する。

** オンドル【温突】韓国の暖房装置。床下に石のトンネルを作り、たき口から火を入れて煙を通し、部屋を暖める。

(い よん え/大学院文学研究科日本文化専攻博士(後期)課程)

編／集／後／記

図書館はいろいろな分野の知識の宝宝箱です。心の贅沢をするためには是非利用して下さい。閲覧室で静かに読書するも、また自宅で音楽を聴きながらの読書もよし。テレビやネットの情報だけではなくその道の専門家の著作で詳細な情報を得ることも大切なことです。良質の読書は心という器を広くそして柔軟にします。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.23 No.2 (通巻158号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161 本館内線 270-275・279・129 工学部内線 813・814 印刷所: (株)アイワード